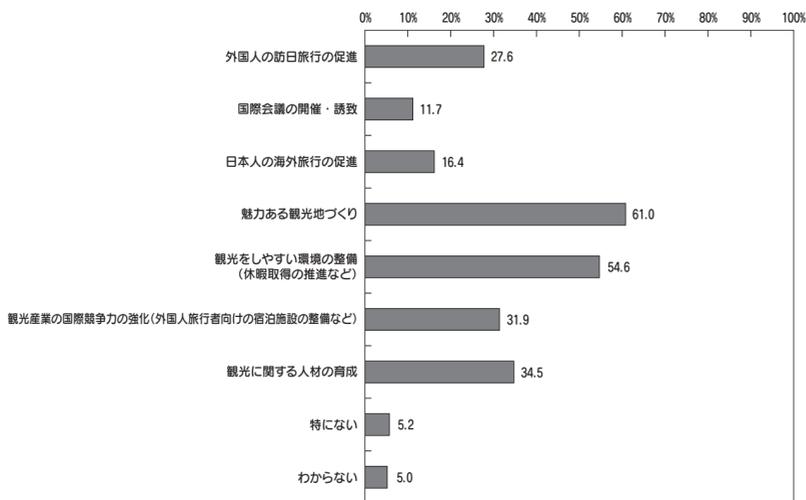


観光庁の認知度、3割上昇

観光庁「観光立国と観光庁に関する調査」から

「魅力ある観光地づくり」重要視する人多く

観光立国の実現に向けて特に重要だと思う観光庁の施策 [MA] (n=3000)



調査対象

全国20歳以上の3千人

調査時期

今年8月12日～8月18日

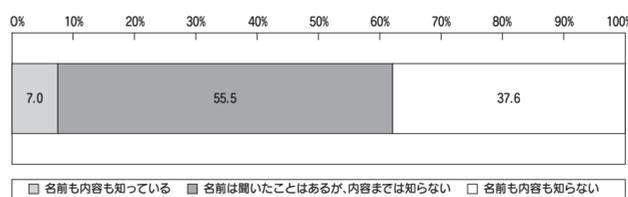
調査方法

ウェブアンケート

観光庁の国民の間での認知度がこの1年でおよそ3割向上していることが、1日に観光庁が発表した意識調査の結果で分かった。昨年10月に内閣府が行った調査では、観光庁について名前も内容も知っていたのは、名前が35.8%だった。今回は62.5%となった。

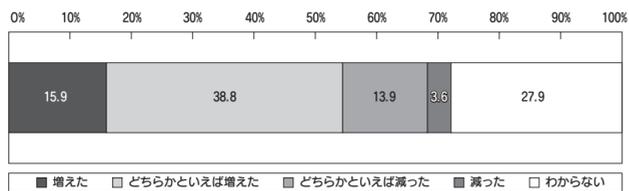
前回調査と同様に、観光立国の実現に向けて重要だと感じる観光庁の施策についても調査。上位3項目は、「魅力ある観光地づくり」(61.0%、前回59.6%)、「観光をしやすい環境の整備(休暇取得の推進など)」(54.6%、前回46.5%)、「観光に関する人材の育成」(34.5%、前回34.4%)で、前回調査と同じだった。訪日外国人の増加については、前回の「治安の面から不安であり、何らかの対策が必要である」(47.7%、前回51.8%)を押しさえ、国際交流が進み相互理解が深まる(51.3%、前回50.7%)が1位だった。

観光庁の認知度 [SA] (n=3000)

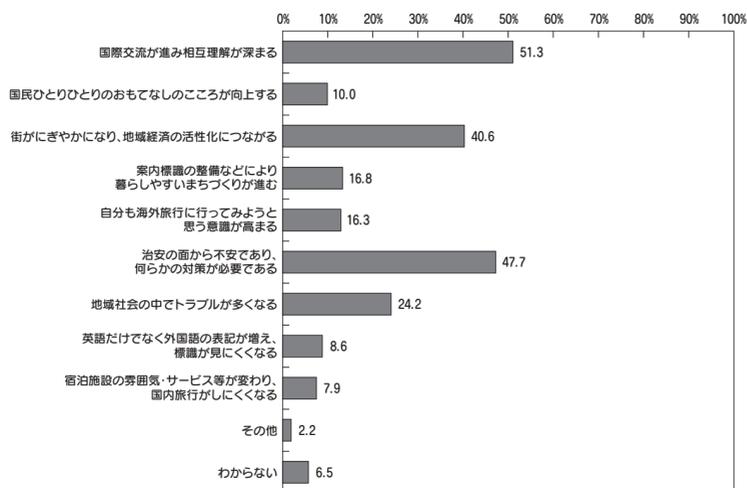


外国人観光客について

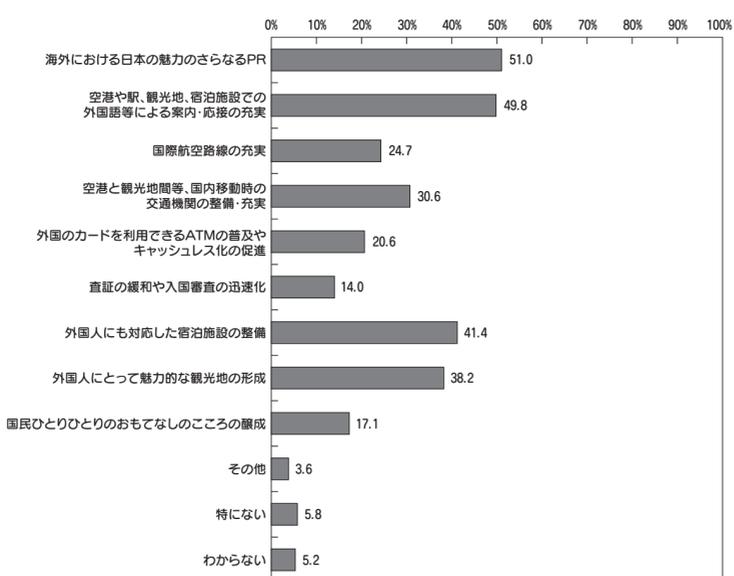
訪日外国人旅行者に対する実感 [SA] (n=3000)



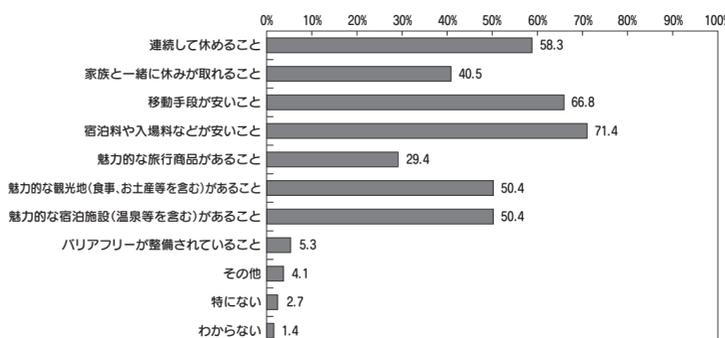
訪日外国人旅行者が増加することについて [MA] (n=3000)



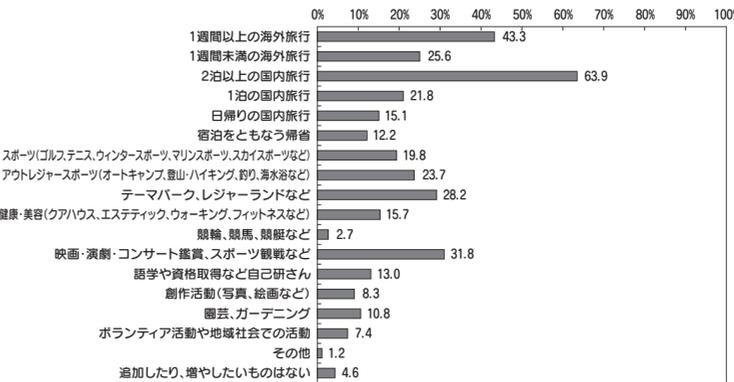
訪日外国人旅行者を増加させるために特に重要だと思う施策 [MA] (n=3000)



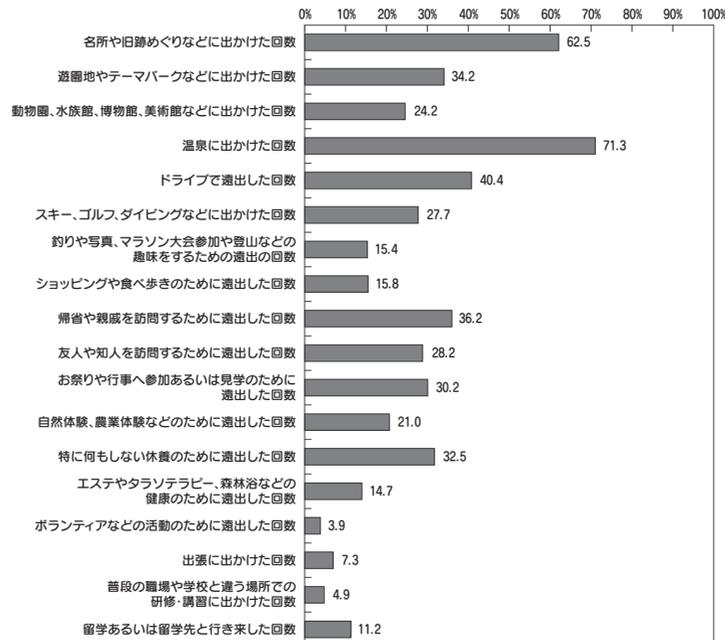
国内旅行に行きたいと思うようになるための条件 [MA] (n=3000)



有給休暇の取得が増えた場合に行きたい活動 [MA] (n=1731)



「旅行に行った回数」として数えるもの [MA] (n=3000)



調査データ